



おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビューの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士(MBA)、新潟郷土史研究会会員
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）
「郷土とことわざ」（人間の科学新社・共著）等

「回文 たがいに・にいがた その1」

新潟のPRか何かで「たがいに にいがた」（互いに新潟）という語が使われていたことがありますが、新潟人（主に下越）なら子供のころから「かめだ にいつ にいがた たがいに ついに だめか」なる回文に慣れ親しんできたものです。

「みがかぬ かがみ」「たけやぶ やけた」「かつららっか」等々、上から読んでも下から読んでも同じ「回文」は、楽しいことば遊びのひとつです。さてさて今回は、新潟版回文をご当地情報も盛り込んでお届けしようと思います。

実はことば遊び好きな筆者はかねてより御当地回文を周囲に言いふらしてきたので、まずは軽いものからいざ！（以下読みやすさ優先のため漢字表記とします。）

「柏崎の木澤歯科」ほんとにあるかどうかは不明ですが、新潟県の児童の虫歯罹患率の少なさは13年連続で全国ナンバー1、日本一の虫歯無し県です。当然柏崎市も、たとえば3歳児の虫歯保有数は0.47本、県平均0.57本を下回ります。（平成24年度）

「加茂のモカ」新潟県加茂市は、国内初のマカロニ生産地、マカロニとくればグラタン、グラタンとくればセットにモカコーヒー、と食の歴史も偲ばれます。

「わが糸井は糸魚川」コピーライターの草分け糸井重里さんの奥方は上記加茂の御出身、忙しい氏の動向を聞かれて思わず一言、北陸新幹線とジオパークで話題の糸魚川に御出掛の様です。

「どすこい 小須戸」現在は新潟市になった旧小須

戸町、なんと天明3年に閑脇として活躍した力士御所車今右エ門出身の地、江戸時代の人気力士ゆかりの地にふさわしい歴史的な回文です。

「つまらん(む)村松」こちらも合併してしまい、往年の地名が消えてつまらん、と秘かに思う方もいるはず。江戸時代には堀家城址の村松城で栄えました。

こちらは「マヤの妻松の山」、松之山は隠れキリシタンの里、マリヤ観音も現存します。マリヤさまもマヤさんも異国の香りする名前です。

「顔が長岡」。城下町長岡ゆかりの河井継之助も牧野の殿様も、あの山本五十六元帥も面長の整った凛々しい顔立ちでした。

城下町といえばあやめ城で名高い新発田市にちなみ、上から読んでも下から読んでも「新発田橋」。江戸時代藩主となった溝口秀勝が築城の際、町の形成と防御のため新しく開削して造った川が新発田川、江戸時代から明治・大正にかけて人々の暮らしを支えてきました。

最後は綺麗に「津南夏」。ひまわりと大地の芸術祭で有名な妻有の夏は太陽が良く似合います。ということで、

広い県内、まだまだあるある回文ですので続きは次回をお楽しみに！

